

## 生物科学学会連合 第1回定例会議 議事録

**日時**：2010年10月8日（金）14:00～16:00  
**場所**：東京大学弥生講堂セイホクギャラリー

**出席**：宮島 篤（生科連 2009-2010 年代表・日本生化学会）  
入江 賢児（生科連 2009-2010 年副代表・日本細胞生物学会）  
浅島 誠  
（生科連前代表・日本学術会議第二部部長・国際生物学オリンピック日本委員会委員長・日本動物学会）  
谷口 直之（日本学術会議第二部基礎医学委員会委員長）  
鎌田 直人（個体群生態学会） 宮本 武典（日本味と匂学会）  
岩崎 博史（日本遺伝学会） 山下 雅道（日本宇宙生物科学学会）  
大杉 美穂（日本細胞生物学会） 深田 吉孝（日本時間生物学会）  
福田 裕穂（日本植物学会） 熊倉鴻之助（日本神経化学会）  
岡本 仁（日本神経科学学会） 石浦 章一（日本生化学会）  
鳩貝 太郎（日本生物教育学会） 由良 敬（日本生物物理学会）  
小西 真人（日本生理学会） 漆原 秀子（日本発生生物学会）  
山本 和俊（日本比較内分泌学会） 石野 史敏（日本分子生物学会）  
松木 則夫（日本薬理学会）

（計 18 学会 21 名）

**欠席**：日本解剖学会 日本植物生理学会 日本進化学会 日本生態学会 日本比較生理生化学会  
日本微生物生態学会 日本免疫学会

（計 7 学会）

中西 秀彦 山口 恵子（事務局）

（敬称略、学会名五十音順）

**議長**：宮島 篤

- ・本会議は 2010 年 6 月 7 日に発効した「生物科学学会連合の運営規約」第 3 条により開催された定例会議である。会員出席数および欠席委任状の数の合計が総会員数の 2/3 以上となったため、同規約第 10 条により、本会議における満場一致の議決事項については本連合の議決事項として採用される。
- ・本会議は本連合第 1 回連絡会議より通算して第 26 回目の全体会議に相当する。

### 議題・報告：

#### 1) 生物科学学会連合第 25 回連絡会議議事録の承認

前回議事録案が確認され、承認された。

#### 2) 生物科学学会連合平成 23・24 年度代表の決定

会員学会からの推薦候補者が 3 名となったため本会議にて投票及び開票を行った。候補者は以下の通り（氏名五十音順）。

- ・浅島誠氏（日本宇宙生物科学会所属、日本宇宙生物科学会より推薦）
- ・黒岩常祥氏（日本細胞生物学会及び日本植物学会所属、日本細胞生物学会より推薦）
- ・長濱嘉孝氏（日本動物学会所属、日本比較内分泌学会より推薦）

投票に先立ち選挙の方法について議論がなされ、以下のように合意した。

- ・欠席委任状提出時、代表候補について第一希望から第三希望まで記載した会員学会分の票の取扱いについては、一回目の投票について第一希望を有効票とし、二回目の投票を行う場合には考慮せず出席学会の投票のみを有効とする。
- ・一回目の上位 2 者による二回目の投票となった場合、2 名のいずれも得票数が全会員の過半数に達しなかった際の取り決めが明文化されていないため、二回目の投票では委任状を含めない出席学会中の過半数を採ることとする。

投票及び開票の結果、会員 25 学会中、浅島氏 11 票、黒岩氏 6 票、長濱氏 3 票、棄権 1 票となったため、二回目の投票が行われた。委任状を含めない出席学会 18 学会中、浅島

氏 12 票、黒岩氏 5 票、棄権 1 票であった。事前議論に従い浅島氏が選出となった。規約及び代表選出議決細則については、今後のために文言・内容について詳細を再検討する必要があるとの意見があった。また選挙時に規約等を変更することは適当でないとの意見もなされた。上記の議論事項は今回限りのものとし、改めて後日規約等の修正案が各学会へメール配信されることとなった。

### 3) 生物科学学会連合平成 23・24 年度会計監査委員について

宮島代表より福田氏と松木氏が推薦され、承認された。

### 4) 運営委員会について

宮島代表より、次期副代表及び運営委員会については次期代表に一任したいとの見解が示された。

### 5) 「元気な日本復活特別枠」パブリックコメントについて

宮島代表より「元気な日本復活特別枠」パブリックコメントについて改めて周知協力依頼がなされた。また本件に関連して、岩澤康裕日本化学会会長より本連合代表宛に、今夏に 29 学会（43 万人会員）会長緊急声明「科学・技術による力強い日本を実現するための大学・研究機関の強化と予算措置を求める」（平成 22（2010）年 7 月 30 日発表）を発表したが、次回こうした学会からの声明を発表する際には本連合にも参加してほしいと呼びかけがなされたとの報告があった。

### 6) その他

#### ・日本学術会議関連

浅島前代表より、公益法人申請のための最新情報説明会について 11 月に開催予定であるとの情報が寄せられた。会員数 1000 人規模で公益法人を取得した学術団体が出、その団体が挙げた公益目的事業として、学術講演会、研究会、セミナー等の開催や、学術誌、学術図書の刊行等があり、それが認められた形となった。認定等委員会でのこうした新たな動きを周知することが主目的であるとのこと。日程等については確定情報を入手次第、各学会へ連絡することとなった。

また谷口氏より、ポスドク問題に関連して、アメリカやカナダ等で進んでいる全体像把握のための調査について日本ではまだ行われていないことから、アンケート実施に向け準備を進めているとの説明がなされた。

ジャーナル関連の話題としては、浅島前代表より日本学術会議から平成 22（2010）年 8 月 2 日付で出された提言『学術誌問題の解決に向けて―「包括的学術誌コンソーシアム」の創設―』の紹介がなされた。

#### ・国際生物学オリンピック日本委員会関連

本年 8 月より国際生物学オリンピック日本委員会委員長に就任した浅島氏より挨拶がなされた。

#### ・国際生物学賞関連

浅島氏より日本学術振興会に基金を設置する国際生物学賞について、各学会へ支援の呼びかけがなされた。

#### ・次回定例会議について

次回定例会議は 2011 年 1 月 24 日（月）14:00-16:00、東京大学山上会館にて開催予定。

以上